

令和5年度 富山市環境審議会 会議録

- 1 日時：令和5年11月6日（月）午後2時00分～午後4時10分
- 2 会場：T o y a m a S a k u r aビル 5階大会議室
- 3 出席者：浅井委員、足谷委員、内山委員、加賀谷委員、北村委員、九里委員、砂田委員、
田中委員、谷井委員、袋布委員、徳山委員、水上委員、道井委員
欠席者：岡田委員、久加委員、佐藤委員、高橋委員、麦島委員、山口委員
- 4 配付資料：
資料1：富山市環境審議会委員名簿
資料2：富山市環境審議会座席表
資料3：富山市環境報告書【第1部】
資料4：富山市環境報告書【第2部】
資料5：家庭ごみの減量化について
参考1：富山市環境基本条例
参考2：第3期富山市地球温暖化防止実行計画
- 5 議題
 - (1) 第2期富山市環境基本計画の進捗状況について
 - (2) 第3期富山市地球温暖化防止実行計画の進捗状況等について
 - (3) 家庭ごみの減量化について

6 会長挨拶要旨

富山市はSDGs未来都市、環境未来都市等に認定され、多方面で対外的な環境に関する政策を日本の中で先駆けて取り入れてきた地域だと認識している。ライトレール、新幹線開通後には多くの観光客が訪れており、まちづくりと環境は非常に密接に関わり合っていると感じている。

また、環境問題及び環境課題は4つの大きな柱があると考えている。1つ目は気候変動である。単に気温が上昇するだけでなく、農作物や公共交通の運行にも影響が出ている。さらに防災面では、集中豪雨や線状降水帯が発生して、各地で災害が起こっている。このように気候変動は、私たちが生活をしていく土台であるため、富山市でもゼロカーボンに向けて、道筋を立てて、着実に取り組んでいくことが重要であると思う。

2つ目は生物多様性である。2010年にCOP10が日本で開催されたが、10年後のアセスメントにおいて、改善しているところがほとんどないという現状である。富山県内には広大な森林地帯や国立公園、ラムサール条約湿地もあり、生物多様性をどのようにしっかりと扱って

いくか重要となる。

3つ目は化学物質管理である。こちらは法律を守ってしっかりやられてると思うが、イタイタイ病のようなことが二度と起こらないようにすることも非常に重要である。

4つ目は資源循環である。市全体の廃棄物の排出量をどのようにして適正なところまで下げていくのか。そしてごみは、市だけの問題ではなく、県を超えた広域の中、そして最終的には日本全体の問題に繋がっていくものだと思う。資源循環については、今日の議題にもあるため、ぜひとも委員の方々のご意見をいただけたらと思っている。

7 議事における質疑応答及び意見

— 第1部及び第2部 —

① 第2期富山市環境基本計画後期計画の進捗状況（資料3）及び第3期富山市地球温暖化防止実行計画の進捗状況（資料4）等について

（委員）

資料4・P13、14 ⑭の消防法（消防用施設等）で、ほとんどの施設が不備ありとなっているがなぜか。

（事務局）

消防法については、例年、指摘が多く、改善に向けて啓発をしているところである。P15に指摘内容及び今後の是正見込みについて記載がある。主な内容は消火器の使用期限切れや誘導灯のバッテリー不足などであったが、各所属では指摘を踏まえ、是正もしくは対応予定としている。消防法の細かな規定運用の中で、見落としやすい側面があると思うが、今後このようなことがないように周知徹底を図っていきたい。

（委員）

昨年から改善されてるところが多いという印象を受ける。例えば、資料3・P25の44「地場もん屋の販売額」については、地場以外のものも販売しており、活性化に努力をされていることがよく分かる。しかし、昨年委員ではなかった方は、昨年と比べてどうなってるのか分かりにくいのではないかと思う。評価がAからSに改善したなど、どのように推移したか示されていると理解しやすいと思う。

資料3・P8の10「竹林ボランティア活動参加者数」に関連して、最近では伐採した竹を使った色々な取り組みを目にするが、伐採した竹はどうしているのか。

（事務局）

各種指標において前年度と比較することで、分かりやすい表現になると思うので、今後検討したい。

(事務局)

伐採した竹は、山の中から搬出することが難しいため、チップ化して撒いている。

(委員)

資料3・P31の50「のりもの語り教育の実施」や51「エコタウン交流推進センター利用者数」はいろいろ工夫して、評価が良くなってきており、うれしく思う。

P30の「1次世代の担い手への環境教育」の⑥植樹体験だが、以前、山田村で小学生を対象とした植樹体験を行っていたと思うが、現状はどうなっているのか。

(事務局)

おそらく山田のK○R○りんの森と言われているところで、教育委員会で実施していた体験事業である。この植樹体験事業は各小学校で一巡し終了したと聞いており、植樹されたものについては、K○R○りんの森を管理する農林水産部に引き継がれている。

(委員)

増えるのは良いが、木が成長してどのような森林ができるのか、子供達も自分が植えたものはどうなったのか気になると思うので、そちらの管理もお願いしたい。

(委員)

資料3・P25の45「学校給食における地場産食材の使用品目数」について、実績は26品目となっているが、品目名と生産量を教えてほしい。

(事務局)

富山県産の野菜も含め、学校給食には地場産の食材が使われている。品目名と生産量は、後日報告する。

(委員)

資料4・P9の新エネルギー及び低公害車導入状況について、中山間地域で電気自動車が導入されているが、充電が必要で走行距離も短く、四駆ではないため、行動範囲が限られてしまう。今後導入する場合はそういったことも十分考慮して、購入すると良いと思う。

(事務局)

電気自動車については、例年、予算の範囲内で希望する所属に配置している。ご指摘のあった、中山間地での冬季における馬力等の課題については、車の性能が年々良くなっているとはいえ、実際使用してる方からもそういった声を聞いている。そのため現在は、本庁を中心に、比較的中山間地ではない出先機関等に優先的に配置をしている。今後いただいたご意見も踏まえながら、計画的に配車を進めていきたいと思う。

(委員)

資料3・P25の42「地域材生産量」について、木造住宅の新築・増築・リフォームに地域材を使用した場合に補助金を交付するとあるが、何件ほど利用があったのか、教えていただきたい。

(事務局)

「とやまの木が見える家づくり推進事業」を毎年実施しており、昨年度は11件の実績があった。そのうち3件については、予算の都合上、今年度に繰り越して行ったものであり、実際は8件の住宅に、128万9千円の補助をしている。

(委員)

評価区分がBやCとなっている「ファミリーパークの入園者数」や「竹林ボランティア活動参加者数」は、子供たちや親子連れなどにPRをしていると思うが、コロナでSNSが普及し、PRの手段が多様になっている。特に親子連れや子供たちへのPRは、新聞やチラシ等からSNSが主流になってきているため、もう少し入場者数を増やしたい場合は、さらにSNSを活用したら良いのではないかと思う。また環境に関して様々な良い政策を行っているが、一市民として知らなかった政策が多数あったため、さらなる広報活動が必要だと思っている。

先日、環境に関するイベントに参加した際に、環境政策課のホームページにすぐろくなどが掲載されていることを参加者が誰も知らなかったということがあり、さらにPRを行い、市民に届くようになれば良いと思う。

(委員)

以前もこの会議で発言したと思うが、環境情報をいかに発信していくか、そしてそれが適切に届いているのか、さらに届いた結果が市民の行動の背中を押すナッジになっているのか。測定は非常に難しいが、例えば二酸化炭素排出量など必ず結果で出てくると思う。環境情報の発信とその結果としての市民行動がまちづくりそのものだと思っている。今のSNSのような新しい広報媒体も含めて、市民への環境情報の発信に関して今一度、ご説明いただけるか。

(事務局)

おっしゃられる通り、情報発信についてはSNSをはじめ多様化していると考えている。市としても現在、環境学習という観点から、様々な媒体を使って何かできないか考えている。環境部に限らず、全庁的に行っている多様な環境に関する事業について、一つのプラットフォーム化したホームページを作成できないか調査・検討している段階である。市民ニーズ等も十分踏まえて、情報発信及びその成果を何か反映できるような仕組みができないか、今後、研究していきたいと思う。

(委員)

資料3・P21 うるおいのあるまちづくりの推進の中の、施策の取り組み内容の「⑨ボランティア・地域との協働により、まちなかの緑化を推進します。」について、今、ハンギングの花がきれいに町を彩っているが、この事業はボランティアだけで行っているのか。この事業に携わった方からは、今年の夏、ハンギングの花を枯らさないように、水やりがすごく大変だったと聞いており、今年の状況を振り返って、新しい方法を考えているのか。

(事務局)

ご質問の事業は、造園業者に業務委託を行っているもので、給水車を使用している。ハンギングは市民が制作したものを城址公園のお堀の横に飾るという事業になる。

— 第3部 —

② 家庭ごみの減量化について

(委員)

資料5・P11～12のプラスチックのリサイクルについて、資料5・P12の再商品化にかかる費用が導入の初年度で16,000千円かかるということで、プラスチックの再資源化というパフォーマンスとしては良いかもしれないが、分別回収したプラスチック資源を最終的に仕分ける手間や費用でこれだけのお金がかかってしまうと、サーキュラーエコミーになっていないのではないのか。費用負担というのはどのような負担なのかお聞きしたい。

プラスチックのリサイクルといってもパレットばかり作るわけにもいかないのだから、プラスチック資源一括回収の導入にあたって、どのような市の戦略があるのか知りたい。

2点目として、資料5・P13では有料化の導入による効果が記載されているが、お金をかけても減らしようがなければごみは減らない。生ごみは減る可能性があるとしても、容器包装を減らそうとすると、どうしても販売する側の売り方を変えなければ減らない。大根の売り方一つにしても、1本丸ごと買える家庭と買えない家庭があるように、減らすことができるような売り方の工夫があると思う。関東では、トレイをやめて、ビニール袋に入れて食品を売るやり方もある。フランスでは、そもそもビニール袋がなく、消費者が買い物袋を持参しており、売り方自体も変わってきている。資料5・P4の写真を見ると、手付かずの食品ロスが多いため、売り方を変えるべきだと思う。有料指定ごみ袋で手数料だけを市民から徴収するが、ごみは減らしようがないということになりかねない。消費者が買い方を選択でき、ちゃんと減らす工夫があって、処理手数料を徴収し、減量化の効率を図ることが必要だと思う。

(事務局)

資料5・P12の再商品化による費用のイメージ図について、選別保管から再商品化までの業務は富山地区広域圏事務組合と事業者で契約しており、中間処理に要する経費は各構成市町

村が負担するものになる。

(委員)

プラスチック類が再資源化された物の売却益はどれくらいになるのか。永く資源として再生利用できるのであれば、リサイクル製品の商売になるが、資料5・P12の再商品化にかかる費用については経済性の話が全く出てこない。

資源としてどれだけの価値を出すかというサーキュラーエコノミーの考え方に立てば、もちろんかける費用はあって然るべきだと思うが、その費用の増額分は税金で取りますというのでは、市民は納得しないと思われる。再資源化することで、こういう経済効果・メリットがあるけれども、一方でリサイクル処理工程のこの部分ではこれだけの費用がかかるというような説明をしてもらわないと、資料5・P12は理解できない。

(事務局)

このプラスチック資源一括回収を実施することで要する負担金の財源には、特別交付税も半分含まれる。

また、売る側・供給者側に対する減量化に向けたアプローチも今後強化していく必要があると考えている。

(委員)

ごみの総排出量(資料5・P1)は少しずつ減っており、重点施策の取組みの効果が出ていると思う。

資料5・P6の環境教育の充実について、さきほど見せていただいた3R啓発動画もそうだが、社会科副読本「美しい富山」もイラストが入っていて、大変わかりやすいものができたと思っている。

今度、市内20会場で開催されるプラスチック資源一括回収の説明会では、一般市民には、ただ数値を並べただけの説明だとなかなか関心を持たれないので、今ほど見た動画を説明会でも活用できたら、もっと理解されるのではないかと思う。

資料5・P7について、消費者団体との意見交換会の中でも、3Rの意味をもっと教えてほしいとの意見があったように、一般市民のごみの減量に対する意識がまだ低いので、今回制作した3R啓発動画を説明会で活用したらよいと思う。

(事務局)

3R啓発動画の活用につきましては、小学4年生向けの3R推進スクールで使うことを現在考えている。今回制作した啓発動画について大変わかりやすいという貴重なご意見として受け止めさせていただいた。

ごみの減量に対する一般市民の関心がまだまだ低いこともご意見としていただいたので、関心を高めるための啓発方法も市の課題だと考えている。

(委員)

資料5・P6の環境教育について、昨年、子ども向けの環境の電子ブックを制作させていただいた。個人的には、とても良いものが出来たが、担当の先生がこの教材を使うと決めない限り、授業中になかなか活用されないということを知っている。先ほど見せていただいた啓発動画は多くの子供たちに届けてほしい。

大人も子どもと同じようにわかりやすく説明してほしいと思っており、今の子どもたちは環境教育をしっかり学んでいるので、環境にはかなり詳しい。しかし、親の方は理解が進んでいないことが多い。子ども向けの環境イベントを実施する際にも、親にも聞いてほしいスタンスでやるとよい。親子を上手く巻き込んで環境施策を推進してほしいと思っている。

また、家庭ごみの有料化は、物価高騰などで生活に困っている子育て世帯も多いので、理解してもらえそうな説明が必要である。サルベージパーティーを開催したり、要らないものを買わないなど、環境について真剣に考えている人たちもいるので、そういった団体も上手く巻き込んで、有料化を説明していかないと受け入れてもらえないと思う。

(事務局)

3R推進スクールは、市の職員が小学校へ直接説明しに行っており、実際の現場で子どもたちに見てもらうことを想定して制作した教材となっている。ただ、環境学習を実施するタイミングはどの小学校もだいたい同じになる場合が多い。その際は先着順になることもあり、市の職員が3R推進スクールに行けないこともあるので、今回制作した啓発動画を補完的に活用したいと考えている。

また、子ども向けの環境イベントに絡めて、ぜひ親御さん達と一緒に聞いてもらえる機会を設けて、このような啓発動画を活用できないか検討していきたい。

有料化の導入については、慎重に検討を進めていながら、環境イベントと絡めた説明方法がないか検討していきたい。

(委員)

ごみを減らすには、なるべくお茶を沸かすようにすれば、ペットボトルを買わなくても済むし、ごはんを作り過ぎないようにすれば食品ロスを減らすことができる。家庭で簡単にごみを減らす方法について、上手く広報していただきたい。

(事務局)

エシカル消費や、3Rの中で最も大切な「リデュース」について、市民にわかりやすく理解していただけるよう、周知方法の工夫に努めていく。

(委員)

プラスチック資源一括回収の住民説明会は、希望者だけ募っているといつも決まった人しか説明会に来ないので、ごみ集積所も荒れてしまうので、集積所の掃除当番の方は大変だ。町内の役員以外にも広く参加してもらおうなど半強制的にやってほしいと思う。

また、プラスチックの分別について言えば、日本の分別はヨーロッパよりも細かいので、高齢者や外国人にも分かりやすく説明してもらいたいし、子どもへの環境教育の前に、まずは大人に対する指導啓発を徹底するべきだと思う。

(事務局)

町内会への参加は強制していないが、全ての自治振興会や町内会長、役員の方々には、積極的に参加してほしいと周知している。子どもへの環境教育の前に、まず大人への指導が必要というのもその通りであり、高齢者への理解も含めて周知をしっかりと行っていきたい。

(委員)

外国人向けのごみ分別指導について、富山市では各言語での指導啓発を行っているのか。

(事務局)

外国人向けの分け方・出し方として6か国語対応のものを配布しているほか、外国人技能実習で日本に来られた方向けに出前講座を実施している。

(委員)

資料5・P8のプラスチック資源一括回収について、プラスチック製容器包装として出すべきか、燃やせるごみとして出すべきか、すごく悩んでいる人が多い。大学生からもよく聞かれるが、これが一括化されたということで、減量化が上手くいくのではないかと思う。

燃やせるごみが減ることで、ごみ処理費用が減り、助燃剤をどれだけ使用するかにもよるが、二酸化炭素排出量も減る方向に行くだろうと思っている。このメリットと費用負担の関係をバランスよく市民に説明することで理解されるのではないか。

資料5・P13について、家庭ごみ有料化の調査を行っているとのことだが、この調査結果は今後の環境審議会でも報告していただけるのか、それとも、検討段階で揉まれて、富山市の素案という形でしか出てこないのか。たくさんの検討項目が記載されているが、富山市がどのように方針を決めていくのか、現時点での方針でよいのでご回答いただきたい。

(事務局)

プラスチック資源一括回収については、資料5・P4の円グラフにあるように、本市では毎年約8万トンの燃やせるごみが排出されており、プラスチック類はその約2割を占めている。先ほど説明しました、令和6年度に想定されるプラスチック資源の回収量としての140トンは導入初年度ということで控えめに設定している。その処理費用はかかるが、この約2割を占めるプラスチック類が減ることによって、これは有料化の目的でもあるが、将来的には焼却施設のダウンサイジング化を図ってまいりたいとも考えており、プラスチックの再資源化には、一定程度の有効性があると考えている。

それから、家庭ごみの有料化について、過去に、令和5年度後半から導入するとの一部報道があったが、これは、報道があった時点で、最短で有料化を実施した場合の前提で説明さ

せていただいたものである。昨今のウクライナ情勢、物価高騰などがあり、まだ有料化導入の決定はしていない。ただ、将来的には有料化の導入は必要であると考えている。今後の審議会でも然るべき時期に有料化の素案を提出させていただくことになると思うが、現在はまだ、導入自治体の調査研究中である。

(委員)

資料5・P13 **取組3** (3) の導入自治体の調査について、有料化を導入してもごみ排出量が減らない自治体もある。どうやったら上手くいくのか、情報を開示していただき、しっかりとしたエビデンスに基づいた調査の結果を踏まえて議論していただきたいと思う。

富山市は、環境未来都市、SDGs 未来都市として世界中から注目されており、私自身、環境審議会の一関係者としては、家庭ごみの有料化で失敗したくないと思っている。

そのためには、富山市以外の成功事例、そして減量化の効果について地域性があるのかも含めて、富山市の実情に適した政策の全てを導入することで、必ず有料化が上手くいくというモデルを考えていただくための調査をしていただきたいと思っている。

資料5・P13 のイメージ図にある「有料化による効果」は、導入後2～3年は続くと予測できるが、リバウンドが起きて結局失敗してしまう事例もある。有料の指定ごみ袋で手数料を徴収し続けるものの、ごみの量・質ともに導入以前に戻ってしまい、それが定着することにならないように、どうするべきなのかが最大のポイントである。

資料5・P4 の円グラフで2番目に多く含まれている「紙類」について、分別が面倒だから燃やせるごみとして出すことは将来的に避けなければならない。市民に対しての啓発の中できちんと分別の意識付けができるような指導啓発を続けていくことが必要である。

有料化導入自治体の減量化の傾向をしっかりと審議会で見せていただきたいということが、審議会委員の多くのご意見だと思うので、その点をお願いします。

(事務局)

導入自治体の事例については、調査の報告になるのか、素案も含めた諮問という形になるのか、報告の機会をいただければと思う。

— 閉会 —